

言葉の意味

言葉の意味

～『三角形』の存在を巡って～

Produced by takumaro

<https://www.factory-takumaro.com/>

2020.06.08 ～ 2020.06.12

言葉の意味

言葉の意味

今後しばらくは、此処では『数学』のお話を続けていくつもりである。ただの、『数学』のお話をというのではない。多分…僕にしか描けない物を此処に描き遺している。その目標とは…少し、余談から始める。以下は、浄土真宗の三帰依文から。

『自ら仏に帰依し奉る。当に願わくは衆生とともに、大道を体解して無上意を発こさん。』

さて…上記の中にも、『』にして個人的に強調をしたい単語が幾つかある。

『仏』、『大道』、『無上意』、…

と抜き出して見せたが、中々、これらの単語の意味する処を、如何に提示したらよいのだろうか…

「『数学』と限定したとして上記の単語の意味する処を…」

と考えても、其処には、無数の人の繋がりがあがる。人から人へ。必死の中で、その『道』

を紡いで来た。その『道』に辿り着き、その『道』を歩み続ける者が辿り着ける境地。これが『大道』の意味する処である。此処までを聴いて、あなたは、

「…は？」

となっているのだろうか。確かに、現実には手掛かりが『無』に等しい。これは数学だけに限った話ではない。また言葉では、説明が出来たとしても、それで、人が納得する訳ではない。おそらくは、遺された言葉は『手掛かり』にしかすぎない。そのような時に

『現物』

を提示する事が、1番手っ取り早い。(提示できるのなら)但し、この方法は、多くの人を黙らせてしまい、また、結果、どちらかと言えば反感を買う事の方が多い。本当に中々、思うようには行かない。現物の意味とは、例えば…先週のプログの内容と思ってもらえばいい。

言葉の意味

今、僕は『数学』のお話を此処で続けている。

『三角形』

という物について、ずっとお話を続けている。しかし…漢字で書けば、上記の通りだし、実際に描いて見せる事も出来る。けれども、何ともまあ…その存在の危うさといい…事実は

『『三角形』として、存在していることが、奇跡である。だから、付随して様々な事、特殊な性質などが明らかになる。』

という事なのだけれども。例えば、『三角形』が…

『存在する場合』

『存在しない場合』

それぞれの場合を考えた結果…いや相当な熟慮した結果…と言った方が良いか。此処には、何世代にもわたる、人々の思考の積み重ねが在って、このようなお話が出来る。

一般的な事だが、僕らが見ている物の大半は出来上がっている物である。そして、僕らは、どのようにして、それが、その物が、出来上がっているのか、基本的に関心を抱く事など、先ずしない。なぜなら、それらを当たり前の事と錯覚をしているから。それらを、当たり前の事と受け入れてしまっているから。また、当たり前のように、その物の恩恵に与っていたりもするから。

…中には、このような思考とは、このような態度とは、真逆を行く人もいる。例えば、数学に於ける『三角形』の場合だったら、

『点』の立場からは…」

『線分』の『長さ』からは…」

『直線』の立場からは…」

といった具合に…相当な熟慮をする。まあ…ほぼほぼ、疑念に満ちた観点かもしれないが。ああ、念のために、簡単な事と思うことなかれ。

『点』って何？」

『線分』って何？」

『直線』って何？」

言葉の、単語の、意味する処を、つまり具体的な考え方を明示するために、相当な熟慮がこれまでに、人から人へと経て、成されて来たのだ。しかし、その事に依って、このような熟

言葉の意味

慮の果てに、新たな観点が（発見と呼んでも良い）誕生したりもした。例えば、以前に紹介した

『三角不等式』

は、これに当たる。

再び、浄土真宗の『三帰依文』から。（冒頭部分）。

『人身 受け難し 今已に受く 仏法 聞き難し 今已に聴く』

受け難し…聞き難し…つまり、当たり前的事なんて、存在しないのですかね。これを、数学の場合で、例を示すと（繰り返しになるが…）

『『三角形』として、存在していることが、奇跡である。だから、付随して様々な事、特殊な性質などが明らかになる。』

前回のお話では、

『三角形の3つの内角の和は、 180° !!!』

という、これにまつわるお話をした。実は、たくさんの凝縮されたエッセンスが其処には在る。それでも、お話を聴いた後でも、当たり前的事と思っている人がいるのかも知れない。

僕の立場から、言う。

どちら側にも、たくさんの凝縮されたエッセンスが其処には在る。

ただ、どちら側の世界に行くのかは、人それぞれなのかもしれない。

takumaro は今日も往く！

言葉の意味

お話

「平面上に異なる直線が3本存在する訳でありまして、其処に『三角形』が成立する可能性があるのでございます。」

「(へ～『三角形』が出来るんだ…)」

誰もが、そう感じるのだろう。

「これの、どこが、『三角形』なのですか？全然、『三角形』になっていないじゃないですか！！！」

ある人達の指摘に依り、其処に、現物の『三角形』が存在しない事に、人々が気付く。

「我々は、『平面上に異なる直線が3本存在する』という事と、その事に依り、其処に『三角形』が成立する可能性」について、言及したのであって、其処に『三角形が存在する事を保障した事』は一度もありません。」

この発言に対して、指摘した人がズバリ言う。

「人々を騙す。詐欺行為ではないですか！！！」

この発言に、ムキになって

「『人々を騙す。』とか、『詐欺行為』という表現は止めませんか！少なくとも、『平面上に異なる直線が3本存在する』のは、確かなのであって、その事を踏まえて、『三角形が存在する』可能性について言及しただけなのですから…」

問題

さて…上記のお話を見て…

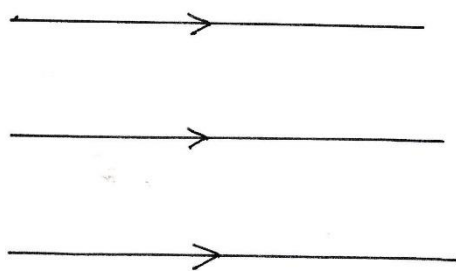
知識が無い、人々が問題…？

あたかも『三角形』が存在するかの如くの発言をした者たちが問題…？

(念のため、この問題の解答や回答を僕が付ける予定はありません。)

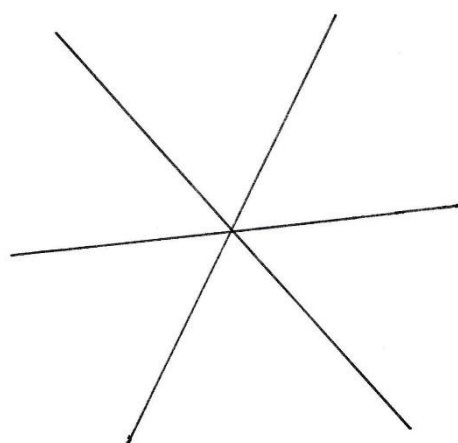
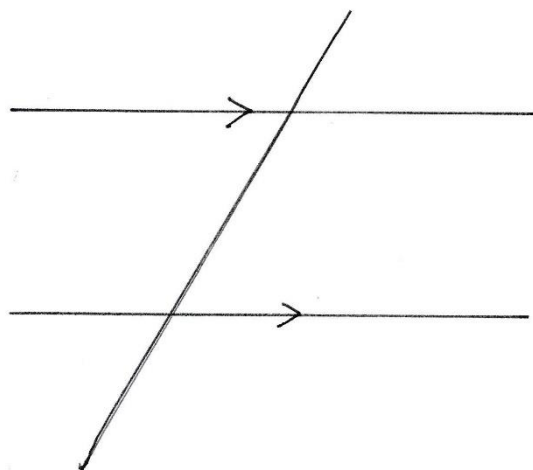
平面上に、異なる直線が3本あったとしても...

～平面上に、異なる直線が3本あったとしても...～



3本の直線が
互いに平行
であったり

1組の(2つの)
直線が、平行で
あったり...



3本の直線が
1つの点で
交わっていたり...

by takumaro

2020.06.08 記

The article was presented by 『TAKUMARO'S FACTORY』 ,
<https://www.factory-takumaro.com/>

© takumaro 2020.06.08—2020.06.12, Printed in Japan.